

日本医療情報学会看護部会 第3回看護業務支援デバイス研究会



多様な看護系デバイスの活用とデータ統合の今後

昨今、看護師が病棟や外来で利用する医療機器や情報機器が爆発的に増えています。これらの機器が充実することは看護業務を円滑にする可能性もありますが、他方では、機器ごとに異なる部門システムが増加して操作負荷が増加したり、あるいは情報端末そのものが増えるという課題も生んでいます。

看護分野においては、2016年はMEDIS-DCが開発している「看護実践用語標準マスター」が厚生労働省標準規格として認められたほか、2022年にはJAHISが同マスターの実装を前提とした「JAHIS技術文書看護データセット適用ガイド」を策定し、さらに同年に厚生労働省老健局も同マスターの引用を視野に入れた「訪問看護計画等標準仕様」を策定しました。

したがってIoT機器の爆発的増加に伴って各社ごとの機器と情報システムを発展させるという形ではなく、これらの既存仕様を活用し統合的な看護情報基盤を構築していくことが必要と考えます。そこで本研究会では「多様な看護系デバイスの活用とデータ統合の今後」をテーマに、デバイス活用に積極的な海外事例も含めて今後の在り方を検討します。

看護職はもちろん、医療情報技師など多くの方の参加をお待ちしております。

日本医療情報学会看護部会
看護業務支援デバイスWG長 瀬戸 僚馬



日時
2023 9/18 (月・祝)
11:00~13:00 ※日本時間

場所 オンラインまたは現地参加
オンライン ▶ Zoomを利用、定員100名
現地参加 ▶ 台北市内:施設見学も可能。
定員10名

参加費
無料

DX推進病棟の取り組みと課題

村岡 修子

日本医療情報学会看護部会副部会長
NTT東日本関東病院副看護部長

多様なバイタル測定機器の活用と課題
～日本編～

天野 秀紀

日本医療情報学会看護部会
病棟業務支援デバイスWG幹事
フクダコーリン株式会社

台湾におけるDX推進の取り組みと課題

王 佩麟

台湾看護情報学会常任理事
台北医科大学病院副看護部長

多様なバイタル測定機器の活用と課題
～台湾編～

廖 珮宏

台湾看護情報学会理事
台北看護健康大学看護学部 准教授

総括発言
～適正な機器利用と情報基盤の充実の両立に向けて～

石田 開

日本医療情報学会看護部会
病棟業務支援デバイスWG幹事
純真学園大学保健医療学部 医療工学科 講師

申込

Zoomの定員があるため、事前にお申し込みをお願いします。
お申込みいただいた方に、前日までにミーティング情報をお知らせします。

<https://forms.gle/w9KjbeBGfD4g5yvU8>

技師の方へ

医療情報技師の資格をお持ちの方には資格更新ポイント(2点)を付与します。
ただし当日研究会を聴講し、簡単な感想文を含むアンケートにご記入いただいた方が対象です。
アンケート記載を完了したかの判断は、当WGに一任とします。